

●ホウネンタワラチビアメバチの羽化



事務所近くの神社の境内で、桜の木の幹に糸でぶら下がっているホウネンタワラチビアメバチの繭を見つけました。事務所に持ち帰りシャーレに入れておきましたところ、7日程で成虫が羽化しました。羽化直前の繭は、刺激を与えると震えながらシャーレの内部を転がっていました。

●ホウネンタワラチビアメバチ (*Charops bicolor*) とは



ホウネンタワラチビアメバチはガやチョウの幼虫に寄生(捕食寄生)する「寄生蜂」の一種で、宿主である幼虫を食べて成長した後に幼虫の体内から脱出して、付近に糸で吊り下げられた繭を形成して内部で蛹化します。「ホウネン」とは「豊年」の事です。この種がイネの害虫であるフタオビコヤガなどに寄生して殺滅する事でイネへの食害を防ぎ、結果的に豊作の年(豊年)となる事に由来しています。

●ホウネンタワラチビアメバチに寄生する寄生蜂の羽化



繭をいくつか採取してシャーレに入れておいたのですが、中には上写真の様にホウネンタワラチビアメバチとは明らかに形態の異なるハチが羽化してきたケースもあります。これは、寄生蜂(ホウネンタワラチビアメバチ)が作った繭に、更に他の種類の寄生蜂が寄生(二次寄生)したものです。

●ホウネンタワラチビアメバチに寄生する寄生蜂の羽化



繭から出てきたホウネンタワラチビアメバチ(左)と二次寄生した寄生蜂(右)を見比べると明らかに形態が異なり、別種であると思われます。繭を形成して蛹化した状態のホウネンタワラチビアメバチに、二次寄生を行う別種の寄生蜂が卵を産み付け、蛹化したホウネンタワラチビアメバチを餌として成長・蛹化したものが羽化した訳です。ある捕食寄生者を更に他の捕食寄生者が餌として利用するケースを「高次寄生」と言います。